KONICA MINOLTA

適用機種：販売モデルは地域により異なります。

カラー機（CL）	C14010シリーズ、C5080シリーズ、C8100シリーズ
モノクロ機（BW）	---

オペレーションクイックガイド - No. 12 -

自動検品（AI-101）

別冊：検査領域設定

Ver. 02.02

目次

1 概要

2 基準画像の登録

3 検査領域設定

4 自動検品の実施

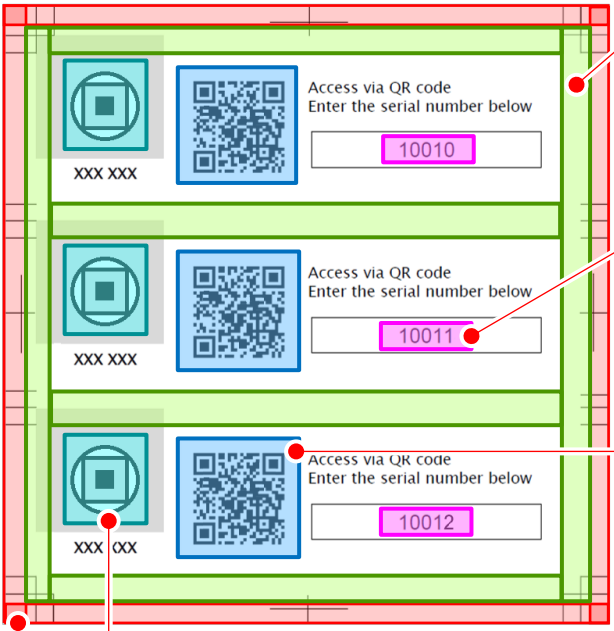
5 補足情報

1 概要

1-1. 検査領域について

基準画像に「領域」を設定し、その「領域」を「検査領域設定プロファイル」として本機に登録することで、さまざまな自動検品を行えます。設定できる「領域」については下記をごらんください。

基準画像
（検査領域設定プロファイル）



検査除外領域
自動検品を実行しない領域
* この例では裁ち落とし箇所に設定

シリアルNo.領域
英数字を検査する領域
* この例ではシリアルナンバー箇所に設定
* UK-312が必要

バーコード領域
バーコードを検査する領域
* この例ではQRコード箇所に設定
* UK-312が必要

指定検査レベル領域
自動検品の検査レベルを変更する領域
* この例ではロゴ部分に設定

その他の領域
可変領域
* 基本的には使用しない

検査除外領域（端部除外）
用紙端部で誤検知が発生しないように設定されている領域
* プロファイルの設定値は、基準画像を使った自動検品のときだけ有効です。
* ［RIP画像で検品］で検品する場合は、プロファイルの設定値は無視されます。本体タッチパネル上で設定して下さい。（画面へのアクセス：タッチパネル -［機械状態］-［IQ機能設定］-［検査除外領域］）

バーコード／シリアルNo.領域でこんなことができます

バーコード／シリアルNo.領域を有効にすると以下の機能が使えます。
- 読み取った英数字のCSVファイルへの書き出し
- 読み取った英数字の連番（昇順／降順）の確認
- 読み取った英数字の表面と裏面の数値の一致確認

1-2. 検査領域設定を使用する自動検品フロー

基本的な流れは以下の通りです。

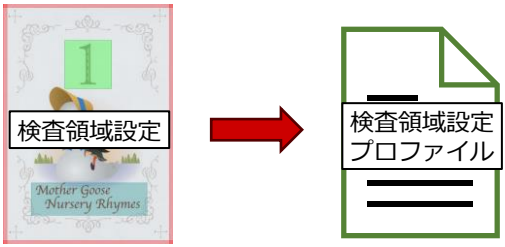
1. 基準画像の登録

Print ManagerやPS Plug-inドライバーからジョブを1部印刷し、基準画像を登録します。詳しくは**2章「基準画像の登録」**をごらんください。



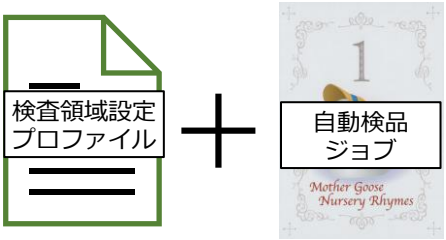
2. 検査領域の設定と検査領域設定プロファイルの登録

登録した基準画像のプレビュー画面を使用して検査領域を設定します。その設定した領域を検査領域設定プロファイルとして本機に登録します。
詳しくは**3章「検査領域設定」**をごらんください。



3. 自動検品対象ジョブの印刷（本番印刷）

Print ManagerやPS Plug-inドライバー上で検査領域設定プロファイルを指定し、自動検品を実施します。詳しくは**4章「自動検品の実施」**をごらんください。



2 基準画像の登録

2-1. 基準画像の登録手順

以下の手順で基準画像の登録を行います。

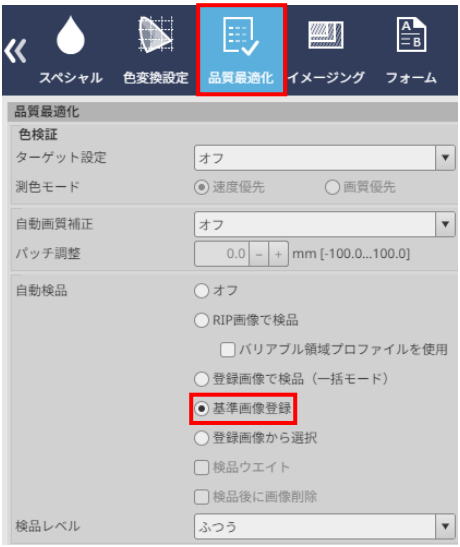
* ここではPrint Managerを使用する手順を説明します。
  PS Plug-inドライバーを使用する場合でも設定内容は同じです。

1. 自動検品を行いたい印刷ジョブをPrint Managerに一時保存する
   PS Plug-inドライバーやPrint Managerを使用して、印刷ジョブをPrint Managerに一時保存します。
2. Print Managerで対象のジョブを選択し、ジョブ設定画面を開く

   参考

   ［簡易設定］タブの［名称］欄に表示されている名称で、基準画像が登録されます。

3. ［品質最適化］タブを選択し、［自動検品］から［基準画像登録］を選択する



4. ［印刷］を押し、基準画像を登録するための印刷を開始する
   IQ-601が自動で印刷ジョブをスキャンし、基準画像が登録されます。

3 検査領域設定

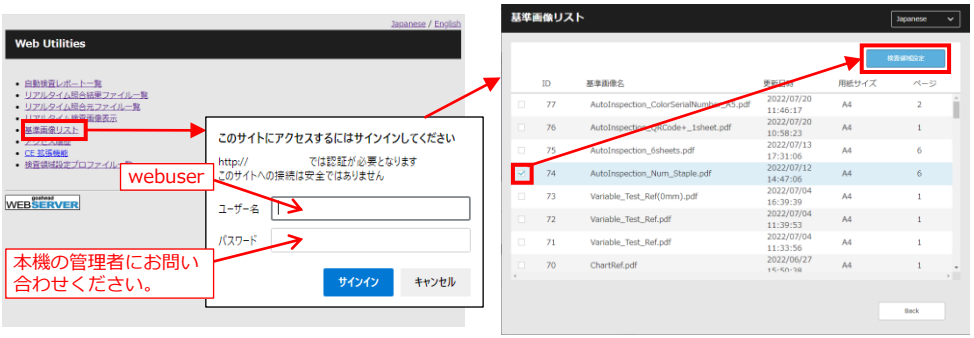
3-1. 検査領域の設定

自動検品の領域は、2章で登録した基準画像に対して設定します。
基準画像は、AI-101のWeb Utilitiesから開きます。

AI-101のWeb Utilitiesから基準画像を開く

PCのブラウザーを起動し、アドレスバーにAI-101のIPアドレスを入力します。
（例） http://<AI-101のIPアドレス>/

Web Utilities（AI-101）-［基準画像リスト］- 基準画像を選択 -［検査領域設定］



参考

AI-101のIPアドレスは以下から確認できます。

- 操作パネル - 設定メニュー/カウンター -［管理者設定］-［ネットワーク設定］-［自動検品NIC設定］

参考

本体タッチパネルの［検品領域設定］では、設定した領域を検査領域設定プロファイルとして登録することができません。検査領域設定プロファイルを登録する場合は、PCのブラウザーからAI-101のWeb Utilitiesにアクセスし、検査領域を設定してください。

3 検査領域設定

3-2. ［検査領域設定］画面の説明



No.	名称	説明
1	［搬送方向］	矢印の方向に用紙が搬送されます。
2	［領域種別選択］	領域の種類を選択します。
3	［対象面選択］	領域の設定対象面を選択します。 ［表面］／［裏面］：選択した面のすべてに領域が設定されます。 ［表裏一括］：表面と裏面に同一の領域が設定されます。 ［指定ページ］：指定したページのみに領域が設定されます。
4	［領域設定］	領域の位置と大きさを設定します。マウスでドラック＆ドロップすることで、領域を設定することも可能です。

3 検査領域設定

No.	名称	説明
5	［確定］ボタン ［削除］ボタン	［確定］：設定した領域を確定します。［確定］を押さずに［設定完了］を押すと、設定中の領域は保存されません。 ［削除］：選択されている領域を削除します。
6	［設定完了］ボタン ［設定取消］ボタン	**検査領域設定画面を終了する場合に、このボタンを押します。** ［設定完了］：［確定］した領域を基準画像に反映して、画面を閉じます。ここを押さずに画面を閉じると設定した領域が基準画像に反映されません。 ［設定取消］：［確定］した領域を取り消して画面を閉じます。
7	［プロファイル］	検査領域設定プロファイルの用途に応じて、［データ登録］または［インポート/エクスポート］をプルダウンから選択します。
	［データ登録］	**［検査領域設定］の設定情報（プロファイル）を本機に登録する場合に使用します。**登録した検査領域設定プロファイルは、自動検品に検査領域を適用するために使用します。 ［ファイル名］：任意のファイル名を入力します。登録する検査領域設定プロファイルのファイル名になります。 ［登録］：検査領域設定プロファイルを本機に登録します。CSVファイルで登録されます。
	［インポート/エクスポート］	**［検査領域設定］の設定情報（プロファイル）を別の基準画像に流用したい場合に使用します。** ［エクスポート］：［検査領域設定］の設定情報をCSVファイルとして書出します。書き出したCSVファイルはPCにダウンロードされます。 ［インポート］：エクスポートした［検査領域設定］の設定情報（CSVファイル）を基準画像に取込みます。 • エクスポートしたCSVファイルは、編集しないでください。 • インポートする際は、対象の基準画像を開いてからインポートしてください。 • CSVファイルのインポート後は、必ず検品領域の設定が正しく取込まれているか確認してください。 • 用紙サイズや画像の向きなどの条件が異なる基準画像に、CSVファイルをインポートしないでください。

重要

［プロファイル］の［データ登録］で生成されるCSVファイルと［プロファイル］の［インポート/エクスポート］で生成されるCSVファイルは互換性がありません。

3 検査領域設定

［領域種別選択］の種類について

選択できる領域は以下になります。

- ［検査除外領域］：自動検品から除外する領域を設定します。
- ［バーコード領域］：バーコードの検査を行う領域を設定します。*
- ［シリアルNo.領域］：英数字の検査を行う領域を設定します。*
- ［指定検査レベル領域］：［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］とは異なるレベルで検査を行う領域（［特定領域］）を設定します。
- ［可変領域］：基本的には使用しません。

＊ UK-312を装着時のみ使用できます。

［対象面選択］について

- ［指定ページ］は任意の1ページのみに設定可能です。［指定ページ］の領域を複数ページに設定することはできません。
- 『［表面］／［裏面］／［表裏一括］』と『［指定ページ］』を同時に設定できるのは、［検査除外領域］のみです。それ以外の領域は、同時に設定することはできません。

領域設定について

- 領域設定の横位置と縦位置は、表示されている基準画像の左上端が起点（0.0mm）になります。領域の位置は、右下方向へプラス数値で入力します。
- 領域設定の横幅と縦幅は、領域設定の横位置と縦位置が起点（0.0mm）になります。設定した位置から、右下方向への領域はプラス数値で入力し、左上方向への領域はマイナス数値で入力します。マウスで領域設定する場合は、ドラッグ開始点が横位置と縦位置の起点になり、そこから右下にドラッグするとプラス数値が幅として入力され、左上にドラッグするとマイナス数値が幅として入力されます。



- マウスのドラック＆ドロップで設定した領域は、再度マウスで選択する（掴む）ことができません。再度マウスで選択しようとすると、新しい領域が作成されます。
  マウスで設定した領域の位置や大きさを変更したい場合は、［領域設定］の各数値を編集して、領域を調整してください。ただし、［確定］ボタンを押した後の領域は再編集できないので、領域を削除して再作成してください。

3 検査領域設定

3-3. 検査領域設定プロファイルの登録手順

自動検品に検査領域を適用するには、検査領域設定プロファイルを本機に登録する必要があります。登録する手順は以下の通りです。

1. PCのブラウザからAI-101のWeb Utilitiesにアクセスする
2. AI-101のWeb Utilitiesから［基準画像リスト］を開く
3. 領域を設定したい基準画像を選択し、［検査領域設定］をクリックして［検査領域設定］画面を開く
4. ［検査領域設定］画面で必要な領域を設定する
   各領域設定の説明は次ページ以降をごらんください。
5. 領域を設定し終えたら、［検査領域設定］画面の［プロファイル］から［データ登録］を選ぶ
6. ［ファイル名］に任意のファイル名を入力し、［登録］をクリックする
   検査領域設定プロファイルの登録完了です。
7. ［設定完了］をクリックし、［検査領域設定］画面を閉じる



参考

他の基準画像に設定済みの検査領域を流用したい場合は、事前に［プロファイル］の［インポート/エクスポート］で設定情報をエクスポートしておき、手順4のときに設定情報をインポートしてください。

参考

登録した検査領域設定プロファイルは、AI-101のWeb Utilitiesの［検査領域設定プロファイル一覧］から確認および削除することができます。

3 検査領域設定

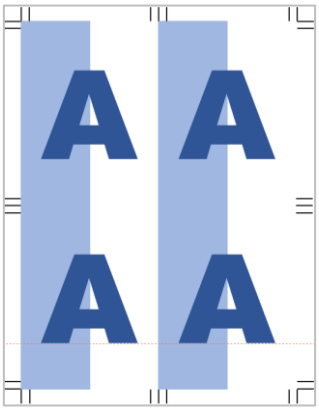
3-4. 領域種別：検査除外領域

自動検品を実施しない領域を設定します。

例えば、こんなときに使用します

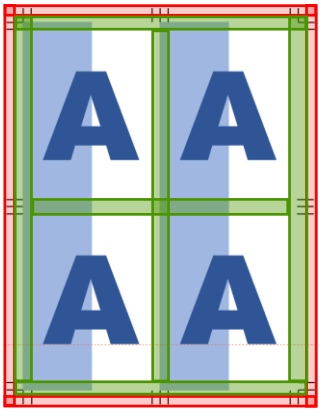
多面付け印刷を行うが、裁ち落としする不要な部分は検査対象から除外したい。

多面付け印刷



このような場合は、裁ち落とし箇所に［検査除外領域］を設定します。

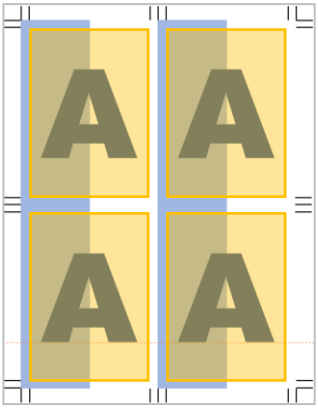
領域設定



検査除外領域

端部除外領域*

検査画像



検査対象

＊検査除外領域設定は、基本的には本体で設定します。プロファイルの設定値は、基準画像を使った自動検品のときだけ有効です。

＊［RIP画像で検品］で検品する場合は、プロファイルの設定値は無視されます。本体タッチパネル上で設定して下さい。（画面へのアクセス：タッチパネル -［機械状態］-［IQ機能設定］-［検査除外領域］）

3 検査領域設定

検査除外領域の設定



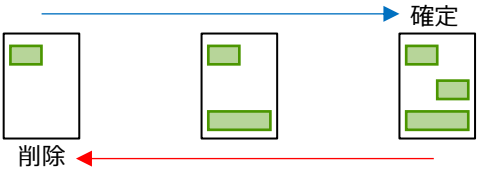
［検査除外領域］を選択します。

領域設定する対象面を［表面］、［裏面］、［表裏一括］、［指定ページ］から選択します。

領域の位置と大きさを設定します。
数値を入力するか、マウスのドラック&ドロップで領域を設定します。
各対象面に、30領域まで設定できます。

［確定］を押すと、設定した領域が確定されます。
領域を複数設定する場合は、［確定］を押すことで、次の領域が設定できるようになります。

［削除］を押すと、確定した領域が削除されます。削除する領域は［確定］ボタンを押した順番と逆順で削除します。（新しい領域から削除されます。）



［全域指定］を押すと、ページ全体が検査除外領域に設定されます。［全域指定］で設定した領域は、［領域設定］の数値には反映されません。
＊［全域指定］はボタンを押した時点で、領域が確定されます。

基準画像を使った自動検品の場合のみ有効な設定です。

用紙端部の除外領域（全ページ共通）を設定します。
搬送方向に対して先端、後端、両脇の除外領域を設定します。
＊端部除外設定は［対称面選択］と関係なく、全ページに適用されます。
＊端部除外設定は、数値を入力した時点で、領域が確定されます。
＊［RIP画像で検品］で検品する場合は、プロファイルの設定値は無視されます。本体タッチパネル上で設定して下さい。（画面へのアクセス：タッチパネル -［機械状態］-［IQ機能設定］-［検査除外領域］）

3 検査領域設定

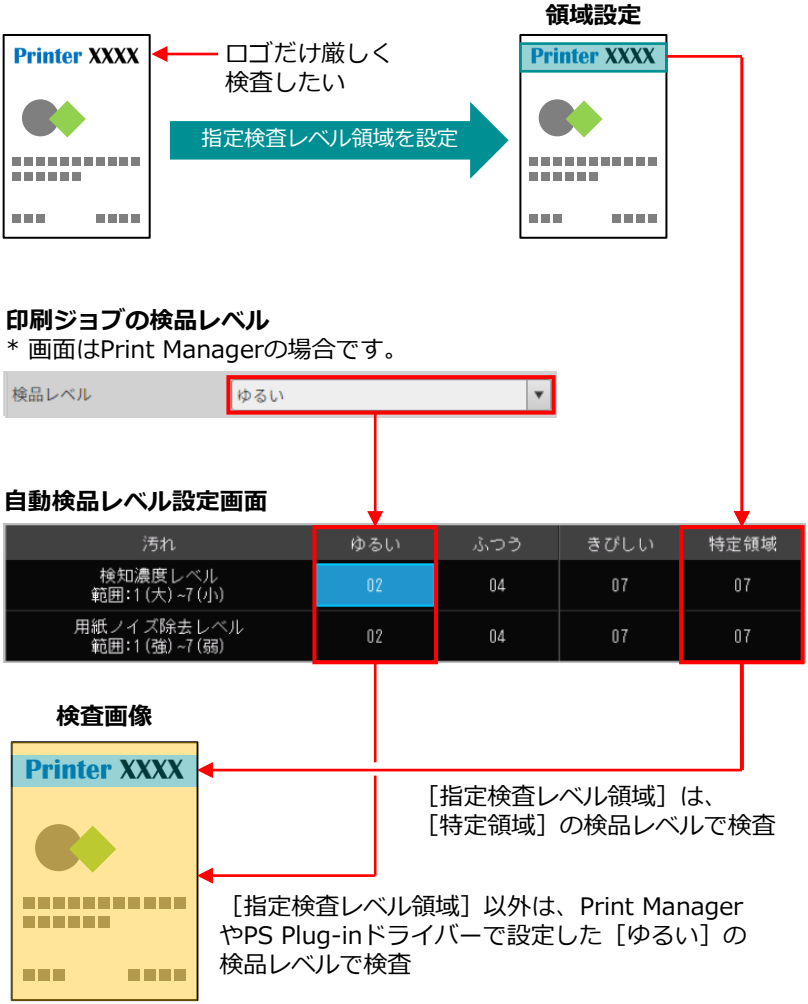
3-5. 領域種別：指定検査レベル領域

Print ManagerやPS Plug-inドライバーで設定した［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］と異なるレベルで検査する領域を設定します。
指定検査レベル領域の検査レベルは、本体タッチパネル上の［特定領域］で指定します。

［特定領域］へのアクセス：
タッチパネル -［機械状態］-［IQ機能設定］-［自動検品レベル設定］

例えば、こんなときに使用します

自動検品自体は［ゆるい］設定で実施したいが、製品ロゴだけは厳しく検査したい。



3 検査領域設定

指定検査レベル領域の設定



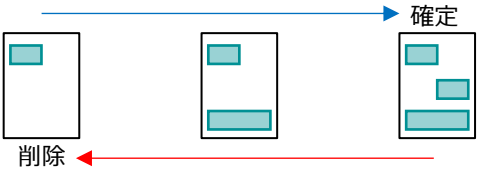
［指定検査レベル領域］を選択します。

領域設定する対象面を［表面］、［裏面］、［表裏一括］、［指定ページ］から選択します。
『［表面］、［裏面］、［表裏一括］』と『［指定ページ］』は同時に設定できません。どちらか一つだけです。
［指定ページ］は任意の1ページだけに設定できます。

領域の位置と大きさを設定します。
数値を入力するか、マウスのドラック&ドロップで領域を設定します。
各対象面に、30領域まで設定できます。

［確定］を押すと、設定した領域が確定します。
領域を複数設定する場合は、［確定］を押すことで、次の領域が設定できるようになります。

［削除］を押すと、確定した領域を削除します。削除する領域は［確定］ボタンを押した順番と逆順で削除します。（新しい領域から削除されます。）



［指定検査レベル領域］の検査レベルについて

指定検査レベル領域の検査レベルは本体操作パネルで設定します。自動検品を実施する前に、本体タッチパネルで検査レベルを確認してください。

3 検査領域設定

3-6. 領域種別：バーコード領域／シリアルNo.領域

バーコードやシリアルナンバーを読み取る領域を設定します。
読み取った英数字はCSVファイルに保存されます。CSVファイルはAI-101のWeb Utilitiesからダウンロードできます。
CSVファイルは、事前設定で［自動検品レポートの作成］を［する］にした場合のみ書き出されます。

重要

［バーコード領域］、［シリアルNo.領域］を使用するには、UK-312が必要です。

読み取り可能バーコード

CODE39 / CODE93 / CODE128 / JAN(EAN) / ITF / NW-7 / UPC / GS1-128 / 郵政カスタマバーコード / QR Code / QR Code（白抜き） / PDF417 / Aztec Code / DataMatrix

* ナローバー幅：0.3 mm以上（ただし、GS1-128は0.191mm以上）
* QRコードセルサイズ：0.35 mm以上

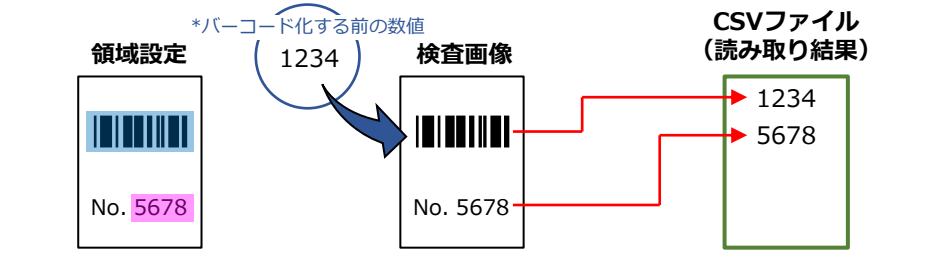
読み取り可能シリアルナンバー

- 数字、英字（大文字）、記号（# $ &）
- フォント：Gothic / Arial / OCRB
- 文字サイズ：6ポイント以上
- 文字色：R/G/B/C/M/Y/K の各色100%のみ（ただし、背景色は白のみ）
- 文字色：白抜き文字（ただし、背景色はR/G/B/C/M/Y/K の各色100%のみ）
- 最大桁数：20

* 英字の「I」と「O」は読み取り対象外（数字の「1」と「0」は読み取り対象）
* Gothicは数字のみ使用可能
* 文字周辺は、5mm以上のマージンが必要

例えば、こんなときに使用します

読み取り可能なバーコードやシリアルナンバーを印刷できているか確認したい。



読み取りたいバーコードやシリアルNo.の印刷位置に領域を設定

読み取り結果をCSVファイルで確認することができる

3 検査領域設定

バーコード領域／シリアルNo.領域の設定



［バーコード領域］または［シリアルNo.領域］を選択します。

領域設定する対象面を［表面］、［裏面］、［表裏一括］、［指定ページ］から選択します。
『［表面］、［裏面］、［表裏一括］』と『［指定ページ］』は同時に設定できません。どちらか一つだけです。
［指定ページ］は任意の1ページだけに設定できます。

領域の位置と大きさを設定します。
数値を入力するか、マウスのドラック&ドロップで領域を設定します。
各対象面に、30領域まで設定できます。
＊ 領域の位置と大きさを設定する前に、領域No.を選択してください。

領域No.を選択します。
バーコード領域／シリアルNo.領域では、領域ごとに領域No.を付与します。領域No.は1～30まであります。
設定済のNo.は赤文字で表示されます。

領域内に描画されたバーコード／シリアルNo.の向き（プレビュー上）を選択します。
＊ 領域確定後に向きを変更した場合は、再度［確定］を押してください。

領域内のバーコードの種類を選択します。
＊ 領域確定後に種類を変更した場合は、再度［確定］を押してください。
＊ ［シリアルNo.領域］の場合は、表示されません。

［確定］を押すと、設定した領域が確定し、それと同時に領域No.が次の番号に切り替わります。［確定］を押した後は、選択中の領域No.が何になっているかを確認するようにしてください。

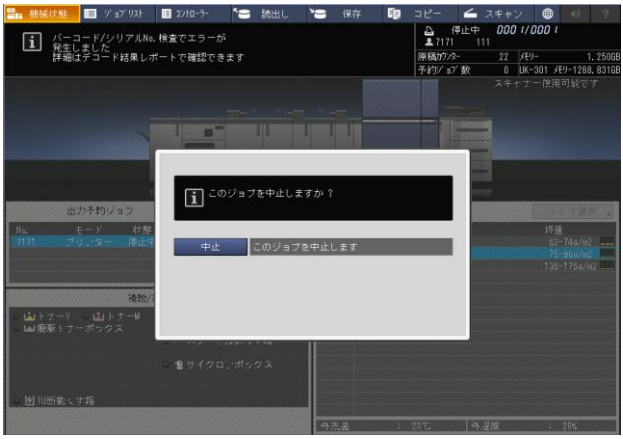
削除したい領域No.を選択し、［削除］を押すことで領域が削除されます。選択中の領域は、枠が太く表示されます。



3 検査領域設定

バーコード領域／シリアルNo.領域 ― 指定領域一致（表裏）の確認機能

表面と裏面に指定した同一の領域No.間で、英数字が一致しているかを確認します。
数値が不一致となった場合、事前設定した処理とは関係なく、給紙が停止して、本体タッチパネル上に印刷中止のポップアップが表示されます。

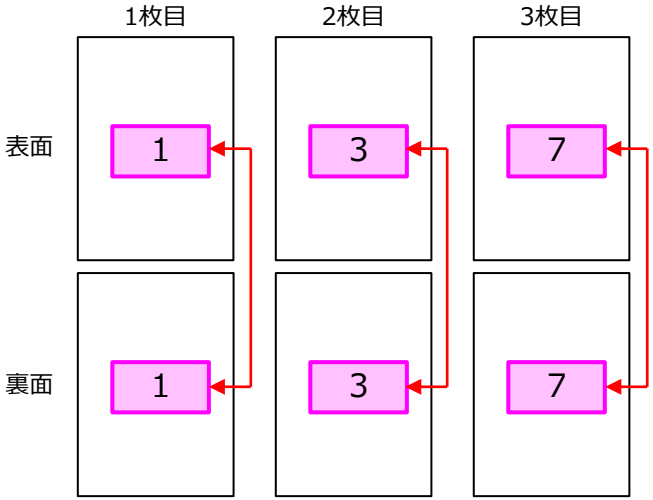


領域設定



指定領域一致（表裏）をONに設定

検査画像



印刷された表面と裏面の指定領域で、英数字の一致確認を実施

3 検査領域設定

指定領域一致（表裏）の設定



［表面］と［裏面］に同一No.の領域を設定する（［確定］を押す）と、この項目が表示されます。

同一No.の領域の表面と裏面での英数字の一致を確認したい場合は、［指定領域一致(表裏) ON］を選択します。同一No.の領域の表面と裏面での英数字の一致を確認しない場合は、［指定領域一致(表裏) OFF］を選択します。

ON／OFFは、領域No.ごとに個別に設定できます。

ON／OFFの選択を変更した場合は、必ず［確定］を押してください。［確定］を押さないと領域の設定に反映されません。

ON／OFFの表示は、直前の領域で選択していたON／OFFの状態を引継ぎます。

おすすめの設定手順

［指定領域一致(表裏)］を設定する場合は、はじめに［表面］と［裏面］に必要な領域をすべて設定してください。その後、設定したすべての領域No.に対して1点ずつ［指定領域一致(表裏) ON］または［指定領域一致(表裏) OFF］を設定してください。

3 検査領域設定

バーコード領域／シリアルNo.領域 ― シーケンシャル確認機能

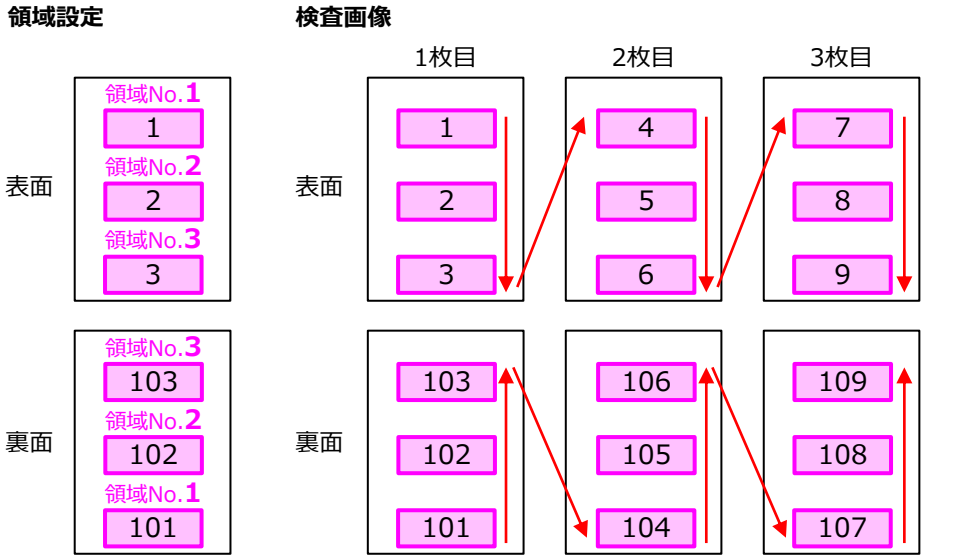
読み取った数値が連番（昇順、降順）になっているかを確認します。（連番だけでなく、同じ数値の場合もOKの判定をします。）
連番の確認方法は［ページ内確認］と［ページ間確認（同一領域のみ）］があります。
読み取った数値の連番が正しくないと判定された場合、事前設定した処理とは関係なく、給紙が停止して、本体タッチパネル上に印刷中止のポップアップが表示されます。

重要

表面で設定した領域は表面のみで連番を確認し、裏面で設定した領域は裏面のみで連番を確認します。そのため、表面から裏面へと連続する数値は、シーケンシャル確認ができません。

ページ内確認

同一ページ内に指定した領域No.の順番で、連番（昇順または降順）を確認します。2枚目以降は、1枚前の最後の数値の続きから確認します。



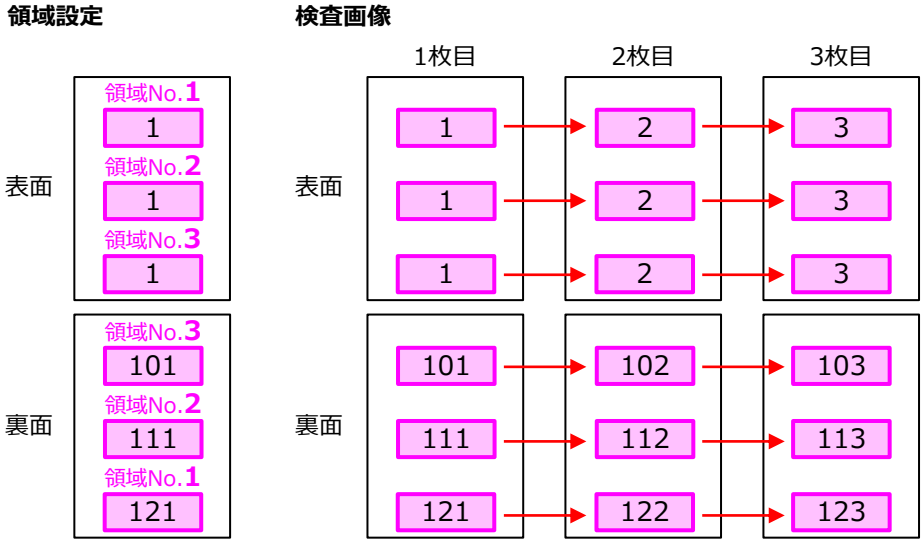
シーケンシャル確認を［ページ内確認］に設定

指定した領域No.の順番で、連番（昇順、降順）の確認を実施

3 検査領域設定

ページ間確認（同一領域のみ）

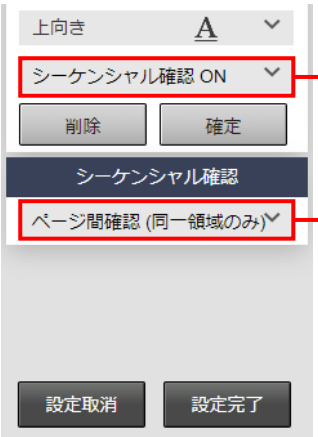
同一領域No.内のページ間の連番（昇順または降順）を確認します。



シーケンシャル確認を［ページ間確認（同一領域のみ）］に設定

指定した領域No.のページ間で、連番（昇順、降順）の確認を実施

シーケンシャル確認の設定



［シーケンシャル確認］で、［ページ内確認］または［ページ間確認（同一領域のみ）］を選択するとこの項目が表示されます。
領域No.ごとにシーケンシャル確認をするか設定できます。シーケンシャル確認から除外したい領域には［シーケンシャル確認 OFF］を設定してください。

対象面ごとにシーケンシャル確認の設定をします。
［OFF］、［ページ内確認］、［ページ間確認（同一領域のみ）］から選択します。
シーケンシャル確認の項目は、設定を選択した時点で確定されます。［領域設定］の［確定］ボタンを押す必要はありません。

おすすめの設定手順

シーケンシャル確認を設定する場合は、はじめに［シーケンシャル確認］で［ページ内確認］または［ページ間確認（同一領域のみ）］を選択してください。そのあとに［領域設定］内の各項目を設定してください。

4 自動検品の実施

4-1. 自動検品の実施手順

検査領域プロファイルを登録した後、以下の手順で自動検品に検査領域設定を適用します。

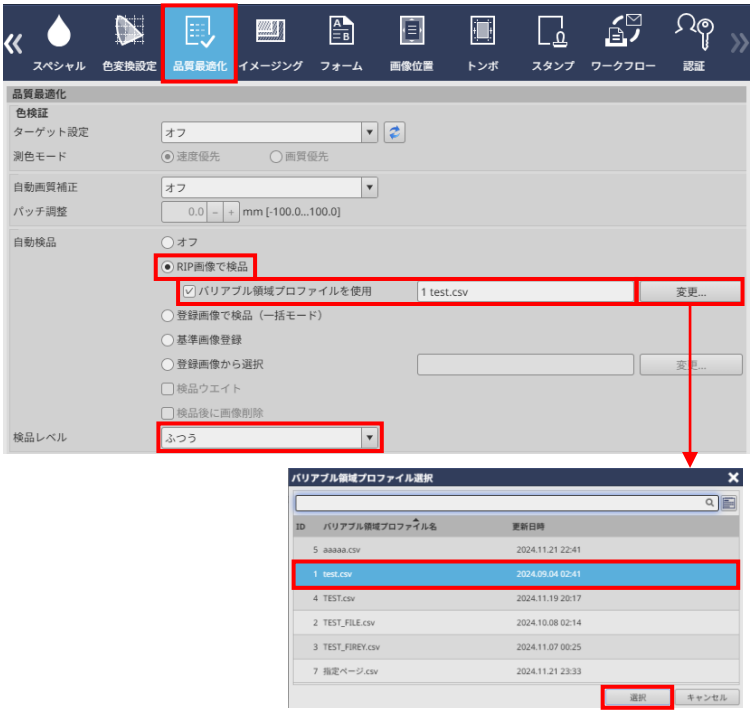
重要

スペシャルトナーを使用する印刷の場合、本手順では自動検品が実施できません。スペシャルトナーを使用する印刷で自動検品を行いたい場合は、 **5-1. 基準画像を使用する自動検品**をごらんください。

* スペシャルトナーは、C14010S/C12010Sの機能です。

* ここではPrint Managerを使用する手順を説明します。
  PS Plug-inドライバーを使用する場合でも設定内容は同じです。

1. Print Managerで自動検品を実施したいジョブを選択する
2. ジョブ設定画面を開く
3. ［品質最適化］タブの［自動検品］から［RIP画像で検品］を選択する
4. ［バリアブル領域プロファイルを使用］にチェックを入れて［変更...］を押し、使用する検査領域設定プロファイルを選択する
5. ［検品レベル］を［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］から選択する



4 自動検品の実施

6. ［印刷］を押し、自動検品を開始する

自動検品の実行中は、機械状態画面に［自動検品］と表示されます。また、実施中の検品レベルも表示されます。



7. 自動検品結果を確認する

自動検品ジョブが終了したら、本体タッチパネル画面にエラーメッセージがないか確認します。また、必要に応じて自動検品レポートを確認します。

参考

自動検品レポートについて詳しくは、「オペレーションクイックガイド No. 12」の**3-3. 自動検品レポートの確認**をごらんください。

5 補足情報

5-1. 基準画像を使用する自動検品

基準画像を使用して、自動検品することも可能です。その際、検査領域も設定することができます。（UK-301と同様の機能です。）

参考

［IQ機能設定］の［基準画像種類選択］で［スキャン画像］を選択し、本手順を実行することで、追い刷り印刷やスペシャルトナー*を使用する印刷でも自動検品が実施できます。

* スペシャルトナーは、C14010S/C12010Sの機能です。

以下の手順をご確認ください。

* ここではPrint Managerを使用する手順を説明します。
PS Plug-inドライバーを使用する場合でも設定内容は同じです。

1. 自動検品を行いたい印刷ジョブをPrint Managerに一時保存する
PS Plug-inドライバーやPrint Managerを使用して、印刷ジョブをPrint Managerに一時保存します。

2. Print Managerで対象のジョブを選択し、ジョブ設定画面を開く

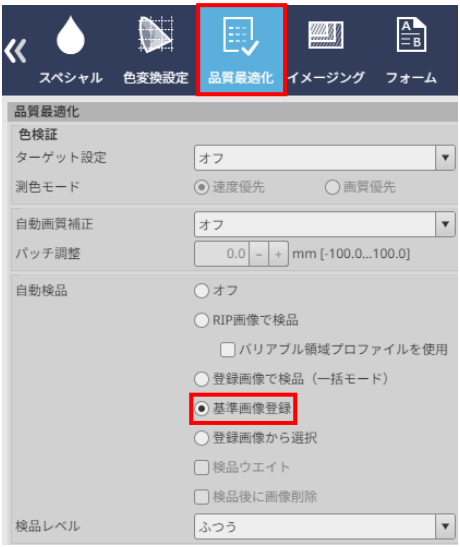
参考

［簡易設定］タブの［名称］欄に表示されている名称で、基準画像が登録されます。

3. ［品質最適化］タブを選択し、［自動検品］から［基準画像登録］を選択する

参考

［スペシャル］タブが設定されているジョブに対して、自動検品の［RIP画像で検品］を選択すると、［スペシャル］タブの設定が［使用しない］に切り替わってしまいます。誤って［RIP画像で検品］を選択してしまった場合は、［スペシャル］タブの設定をやり直してください。



4. ［印刷］を押し、基準画像を登録するための印刷を開始する

IQ-601が自動で印刷ジョブをスキャンし、基準画像が登録されます。

［基準画像種類選択］で［スキャン画像］を選択している場合

基準画像登録用に印刷した出力紙に、汚れや画像欠けなどの印刷不良がないかを確認してください。印刷不良がなければ、基準画像登録の手順は完了です。次の手順に移ってください。

出力紙に異常があった場合は、もう一度本手順を実施してください。

［基準画像種類選択］で［RIPデータ］を選択している場合

基準画像の登録手順は完了です。次の手順に移ってください。

➔ 検査領域を設定する場合は手順5へ

➔ 検査領域を設定しない場合は手順8へ

5. 基準画像を開く

AI-101のWeb Utilitiesまたは［機械状態］画面の［基準画像管理］から基準画像を開きます。

AI-101のWeb Utilitiesから基準画像を開く

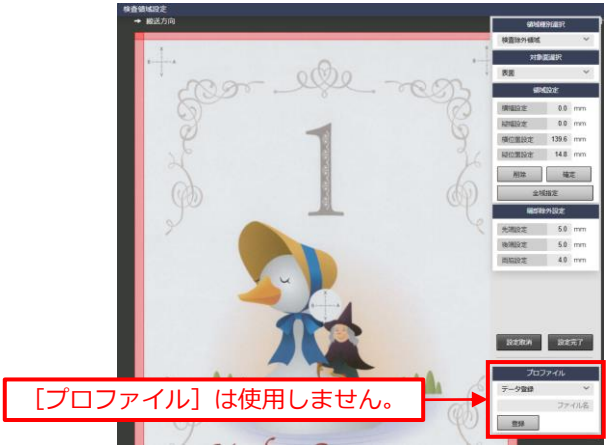
Web Utilities（AI-101）- ［基準画像リスト］- 基準画像を選択 - ［検査領域設定］

本体タッチパネルから基準画像を開く

タッチパネル - ［機械状態］- ［基準画像管理］- ［基準画像リスト］- 基準画像を選択 - ［検品領域設定］

6. ［検査領域設定］画面で必要な領域を設定する

7. 必要な検査領域を設定したら、［設定完了］をクリックし、［検査領域設定］画面を閉じる



5 補足情報

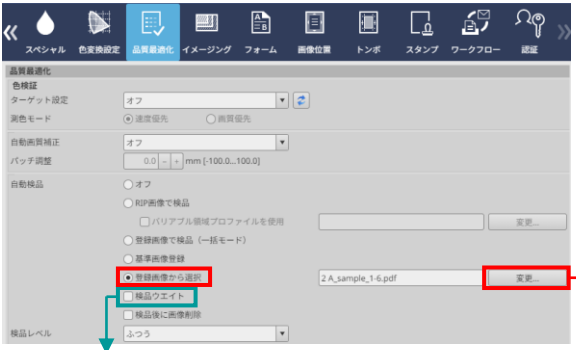
8. Print Managerで自動検品を実施したいジョブを選択する
9. ジョブ設定画面を開く
10. ［品質最適化］タブの［自動検品］から［登録画像から選択］を選択する
11. ［変更...］を押すと［基準画像選択］が表示されるので、登録した基準画像を選択する
12. ［検品レベル］を［ゆるい］、［ふつう］、［きびしい］から選択する

参考

［検品ウエイト］にチェックを入れて印刷すると、本体タッチパネル上で自動検品の設定（確認）が可能になります。

参考

自動検品実施後、使用した基準画像を削除する場合は、［検品後に画像削除］にチェックを入れてください。







13. ［印刷］を押し、自動検品を開始する
14. 自動検品結果を確認する

© 2025 KONICA MINOLTA, INC.